

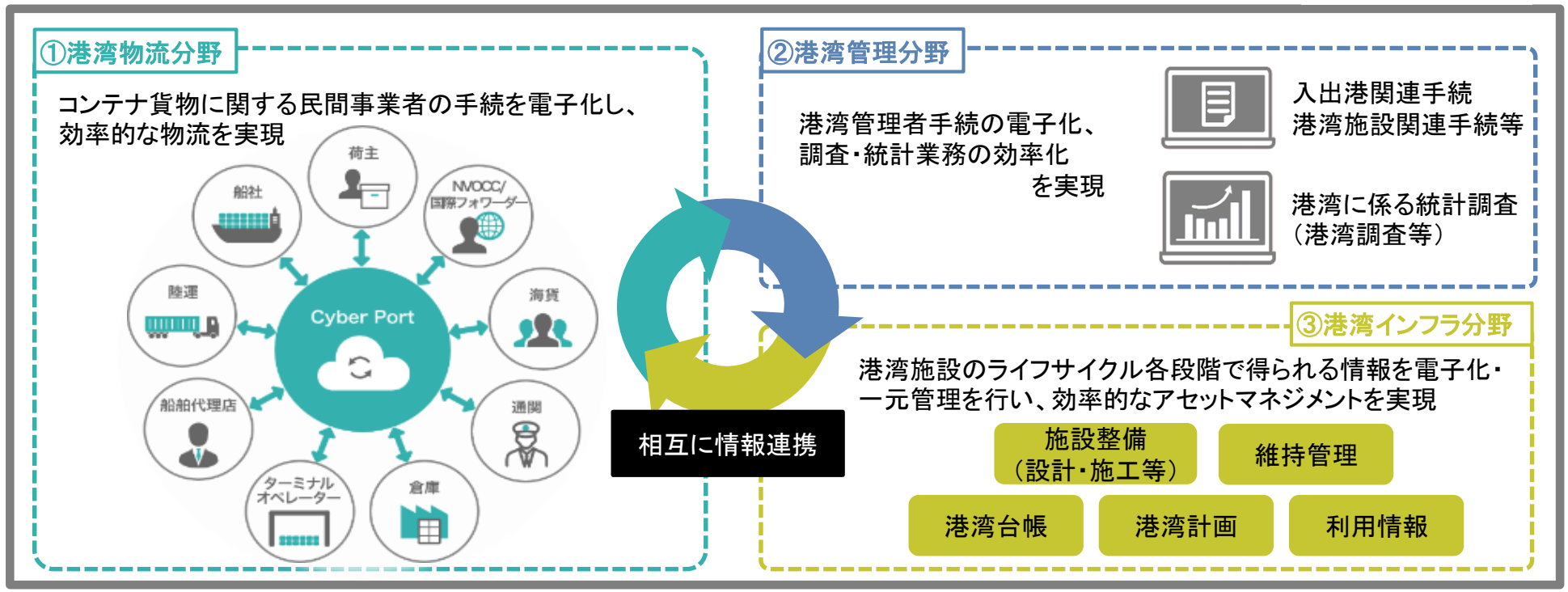
サイバーポートの導入目的

- 現状、紙、電話、メール等で行われている港湾関係者間のやり取りを電子化し、港湾を取り巻く様々な情報が相互に繋がる環境を構築し、港湾全体の生産性向上を図る。

サイバーポートの全体像

サイバーポートとは、下記の3分野の情報を一体的に取り扱うデータプラットフォームであり、相互のデータ連携を可能にする。

- ①港湾物流分野: 民間事業者間の港湾物流手続
- ②港湾管理分野: 港湾管理者の行政手続や調査・統計業務
- ③港湾インフラ分野: 港湾の計画から維持管理までのインフラ情報



サイバーポート(港湾管理分野)の概要

- 港湾管理者に対する行政手続や港湾調査に係る業務を電子化・標準化し、港湾関係者の業務負荷を軽減し、港湾統計の正確性・迅速性向上やデータに基づく港湾政策立案を実現。
- 各システムで収集したデータは国土交通省の全職員が利用可能となる。*1

入出港関連手続: NACCS機能改善 (入出港届、係留施設使用許可申請)

実証対象

①事前調整 → ②申請/許可 → ③入港/シフト → ④実績報告

課題
空き状況を電話確認 → 電子化が進まない

対応策(パースウィンドウ)

事前調整を可視化し、電子申請を加速

連携

調査・統計業務: サイバーポート(調査・統計) (港湾調査等)*2

実証対象

現状

紙・FAX・メール

課題①: NACCS (申請)

課題②: 都道府県

課題③: 国 (集計・報告・確認)

報告者

① NACCS等に同一内容を入力
② 調査票提出方法/様式が多岐に渡り、管理が困難
③ 調査票の確認や、集計作業・チェックが非常に手間

対応策

連携

サイバーポート(調査・統計)

一元管理・エラーチェック

画面入力

国

都道府県

報告者

自動集計・提出・確認

報告者 (従来の提出手段)

様々な提出方法の取込/一元管理

チェック・集計自動化

ワンスオンリーの実現

入力支援による統計の正確性向上

その他港湾管理者手続: サイバーポート(手続)構築 (港湾施設、港湾区域、臨港地区関連申請等)


課題

- 手続の種類・様式・内容がバラバラ。
- 電子化の受け皿となれるシステムがない。

対応策

- 手続の種類/内容の標準化
- 申請作業補助機能の提供
- 蓄積データの政策への活用
- システムで申請を一元管理

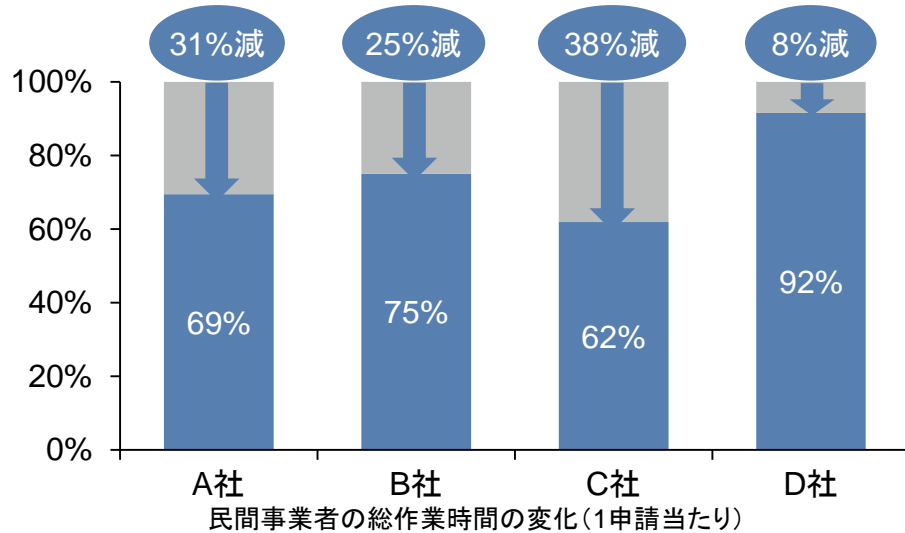
- 4港において、令和5年1～2月にNACCS機能改善及びサイバーポート(調査・統計)構築に係る実証を実施。
- 構築したシステムを参加者に利用していただき、作業時間調査、現地ヒアリング・アンケートを行った。

項目	入出港関連手続の電子化 NACCS機能改善	調査・統計業務の電子化・効率化 サイバーポート(調査・統計)構築
実証参加者	港湾管理者:4者 新潟港・御前崎港・和歌山下津港・広島港 事業者:14者 船舶代理店、港湾運送事業、船舶運航会社等	港湾管理者:4者 新潟港・御前崎港・和歌山下津港・広島港 事業者:49者 船舶代理店、港湾運送事業、船舶運航会社等
実証実施期間	令和5年1月16日～令和5年2月17日	令和5年1月5日～令和5年2月28日 (調査対象:令和5年1月分甲種港湾調査)
参加者との調整	<ul style="list-style-type: none"> 港湾管理者に対象バースを選定いただき、当該バースを利用する事業者に対して、実証の協力依頼を実施 実証参加者に対して、現状業務とシステム導入後業務それぞれの作業時間調査及び現地ヒアリング・アンケートを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 4港の全事業者(報告義務者)に対して実証の協力依頼を実施 実証参加者に対して、現状業務とシステム導入後業務の作業時間調査及び現地ヒアリング・アンケートを実施
実証内容	事業者 バース利用状況の確認 新規申請・訂正、申請一覧の照会 港湾管理者 バース利用状況の確認 申請確認・許可	データ連携  事業者 調査票作成(画面入力、 NACCSデータ連携 、独自帳票の変換)・提出、疑義照会 港湾管理者 調査票確認・取込(各種様式、AI-OCR)・作成(画面入力)、疑義照会、集計表作成・提出

- NACCS機能改善により、事業者、港湾管理者共に入出港関連手続の業務効率化の効果が確認された。

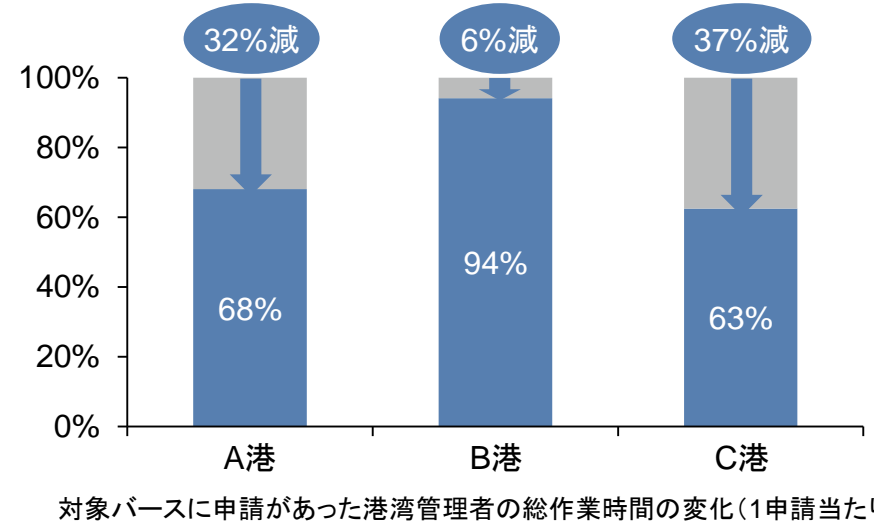
事業者の業務効率化

1申請当たりの総作業時間**最大38%の削減を実現**



港湾管理者の業務効率化

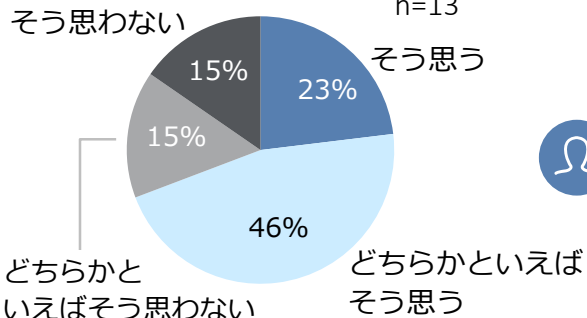
1申請当たりの総作業時間**最大37%の削減を実現**



参加者の声

バースウィンドウを
他事業者にも勧めたいか

n=13



一目でバース利用状況が確認でき、空きバースが把握できるので使用しやすいと感じた。

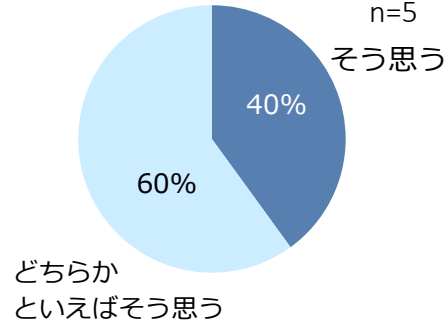


バースウィンドウから過去の係留申請情報を活用できるのは便利である。

参加者の声

バースウィンドウは
わかりやすかったか

n=5



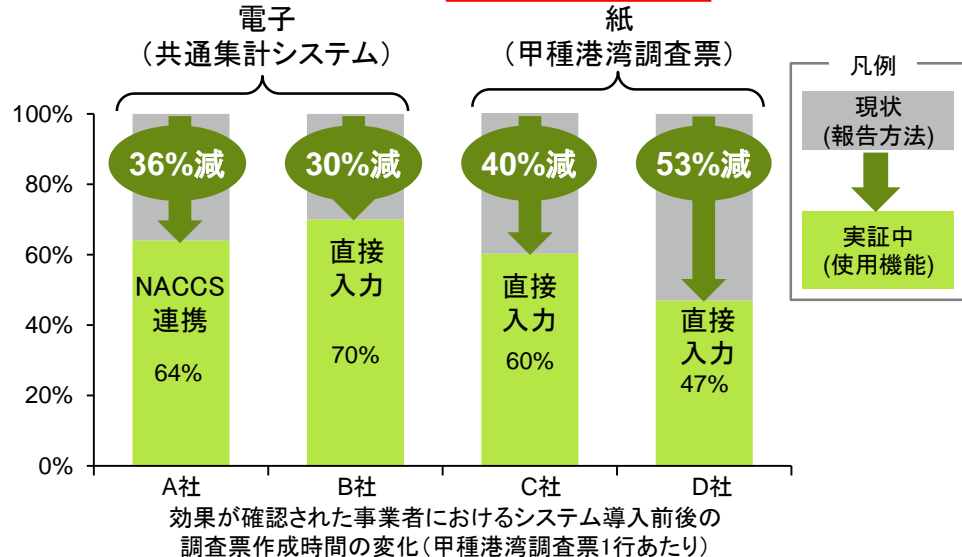
バースウィンドウ機能は、従来の紙での管理方法と比較してバースの利用状況が確認しやすいので便利である。DWTが超過したか否かをチェックするアラート機能が申請内容確認時に活用できた。



- 事業者、港湾管理者の双方で作業時間削減や書類削減の効果が確認された。

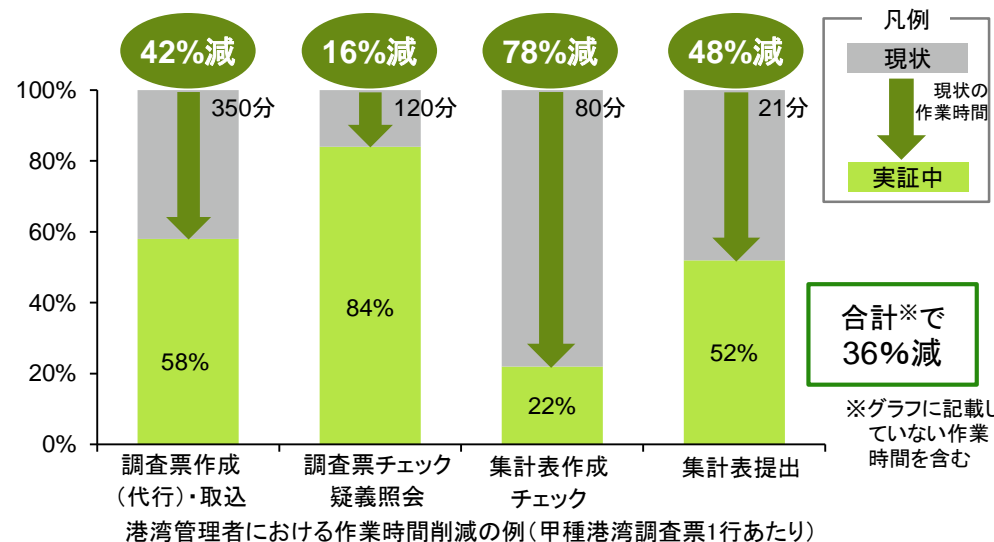
事業者の業務効率化

調査票作成時間が**最大約53%削減**



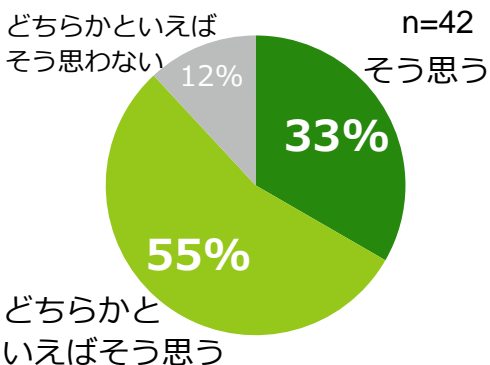
港湾管理者の業務効率化

港湾統計とりまとめ作業時間を**約36%削減**



参加者の声

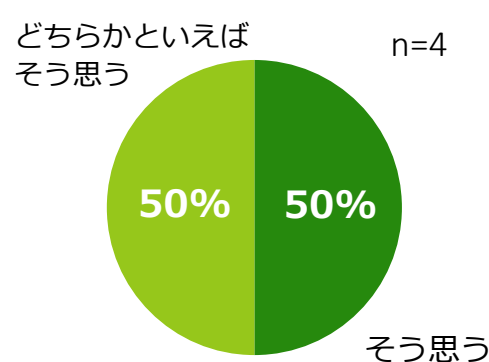
システムは操作しやすいか



- NACCSデータ連携を使用することで、**手入力が不要となり報告の抜け漏れを防ぐ**こともできた。
- 調査票の郵送にかかる**手間や費用が不要**になることに加え、印刷した資料の保管スペースも不要になった。

参加者の声

システムは操作しやすいか



- 報告者が調査票を作成する際に**選択入力**できるため、**記入間違いのミスが削減**された。
- コードについても自動入力されるため、**従前実施していたコード付番が不要となり、負荷が軽減**された。

サイバーポート(港湾管理分野)のスケジュール

- NACCS機能改善やサイバーポート(調査・統計)については、令和4年度に実証を実施。
- サイバーポート(手続)については、令和4年度末から5年度初旬にかけて、関係者への意見確認を実施。
- これらも踏まえ、システムの改善を進め、令和5年度末までの本格稼働を目指す。

